

成田国際空港における取組状況 (脱炭素化推進へ向けたイノベーションの取り組み)

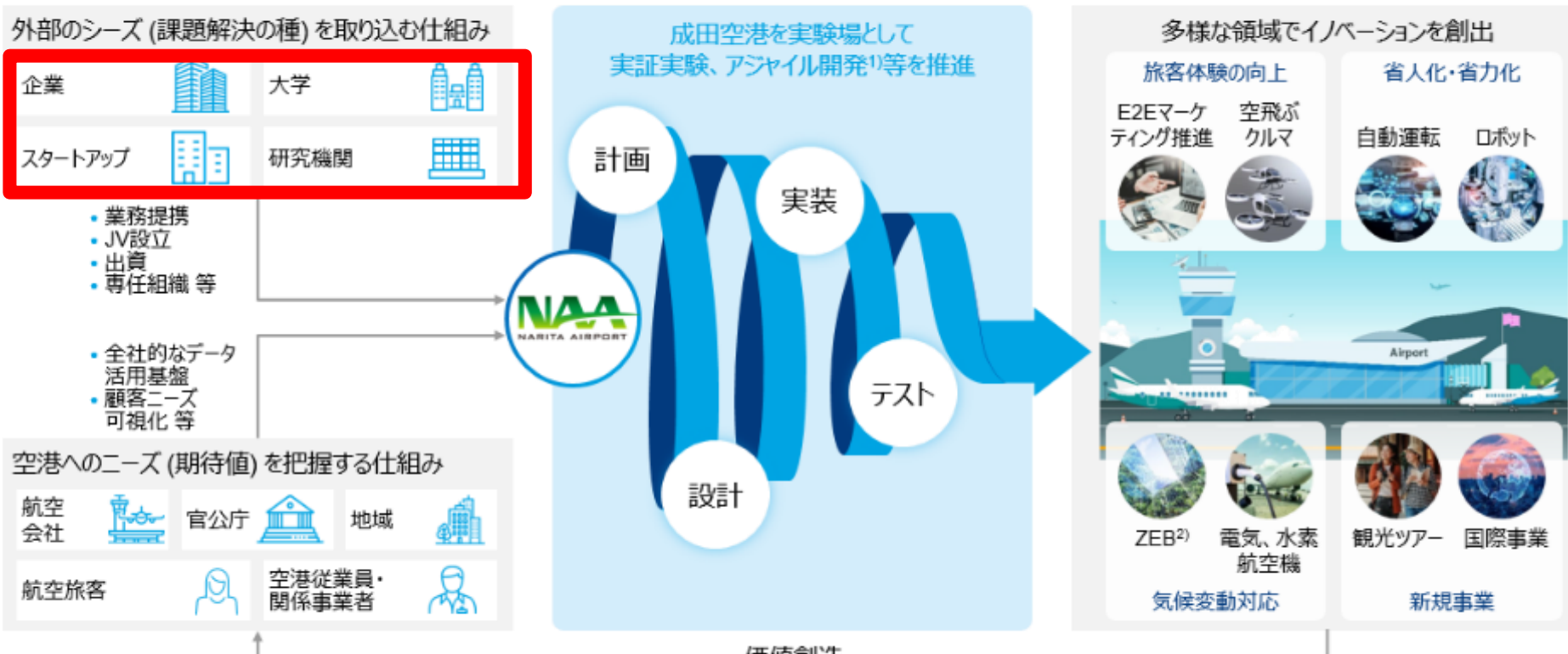
2024年10月16日（水）
成田国際空港株式会社



成田空港におけるイノベーション取り組み全体像

➤ 様々な企業・大学等との連携や新技術の活用により脱炭素化の更なる取組推進

成田空港を実験場としたチャレンジの積み上げを通じ、技術革新による価値創造を加速



1. 変化の激しいビジネスニーズに対応するため、仕様変更を予め想定し、「計画・設計・実装・テスト」の開発工程を機能単位の小規模なサイクルで繰り返して開発を進めていく手法
2. Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

イノベーション推進の取組(中期経営計画「Restart Narita」) 引用

イノベーション推進の具体的取り組み①

- 株式会社eliconが運営する日本最大級のオープンイノベーションプラットフォーム AUBA（アウバ）の活用
- 4つのテーマにより募集を行い、共創パートナーとして国内企業と連携
 - ①従業員の生産性向上 ②旅客への新たな価値提供
 - ③空港外に保有するフィールドの利活用 ④サステナブルの空港の実現



Narita Airport

共創により「成田空港発」価値を 最大化するプログラム

OPEN INNOVATION PROGRAM 2023



イノベーション推進の具体的取り組み②

- アジア空港として初めて、Airports for Innovation (A4I) 加入
- 10空港事業者共同で4つのテーマについてスタートアップからの提案を募集

- 1. Seamless travel experience:** デジタル技術や最新サービスを活用し、旅マエから旅アトまで旅行全体をスムーズで効率的な顧客中心の体験とする革新的なアイデアを募集します。
- 2. Sustainable Aviation:** より持続可能かつ、環境への影響を低減するためのソリューションを募集します。このテーマを通じて、ネットゼロ航空の実現を目指します。
- 3. Smart Luggage Revolution:** 単なる技術的な進歩にとどまらず、旅行者の利便性、セキュリティ、そしてサステナビリティ向上を実現する手荷物ソリューションを開発するために、旅行体験における手荷物のあり方を再定義し、イノベーションを起こすアイデアを募集します。
- 4. AI-Powered Airport:** 運営効率、旅客体験、および総合的な航空マネジメント向上のためのAIの活用方法の創出を目指します。



- 海外の事業者も含めてオープンイノベーションの取組を推進

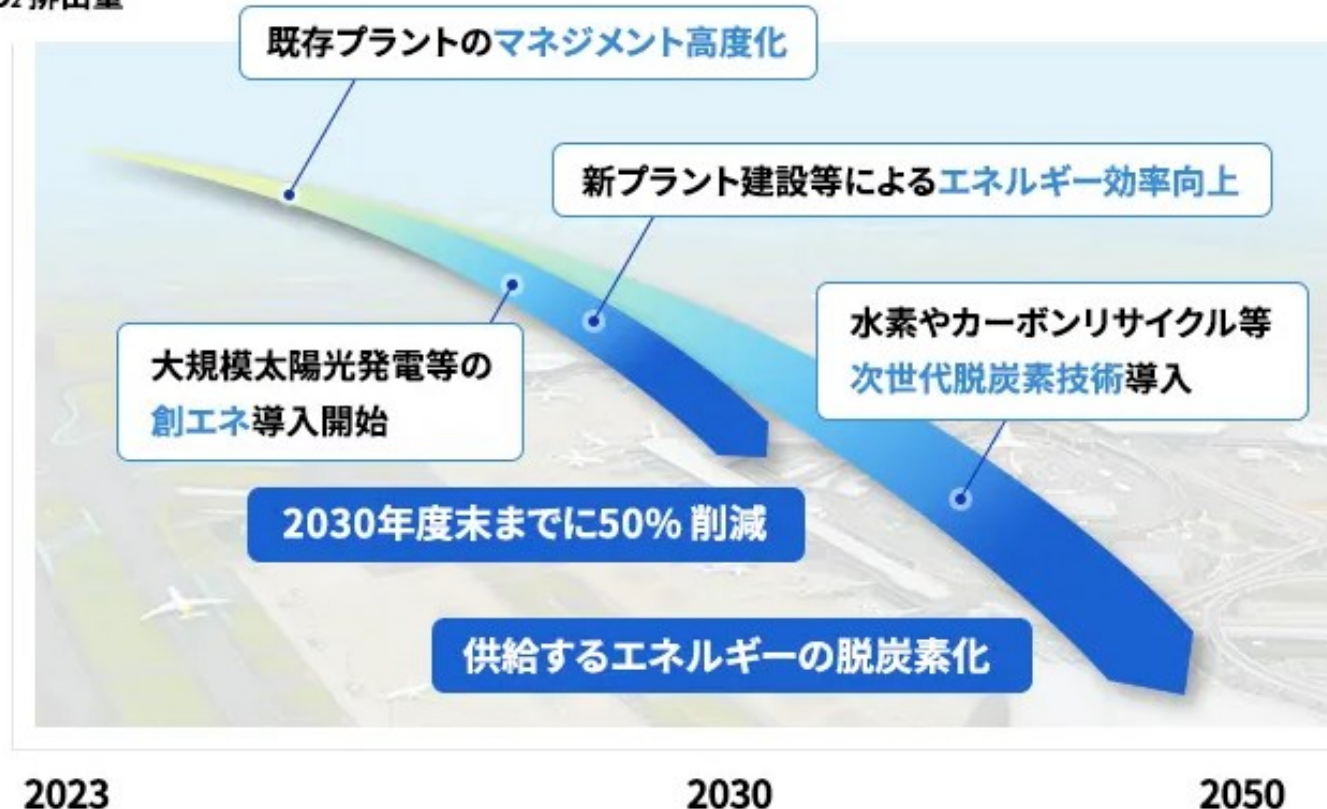
エネルギー供給会社設立による脱炭素化の取り組み推進

- エネルギー供給に関する新会社を東京ガスと設立
(2023年4月1日事業開始)



脱炭素ロードマップ

CO₂ 排出量

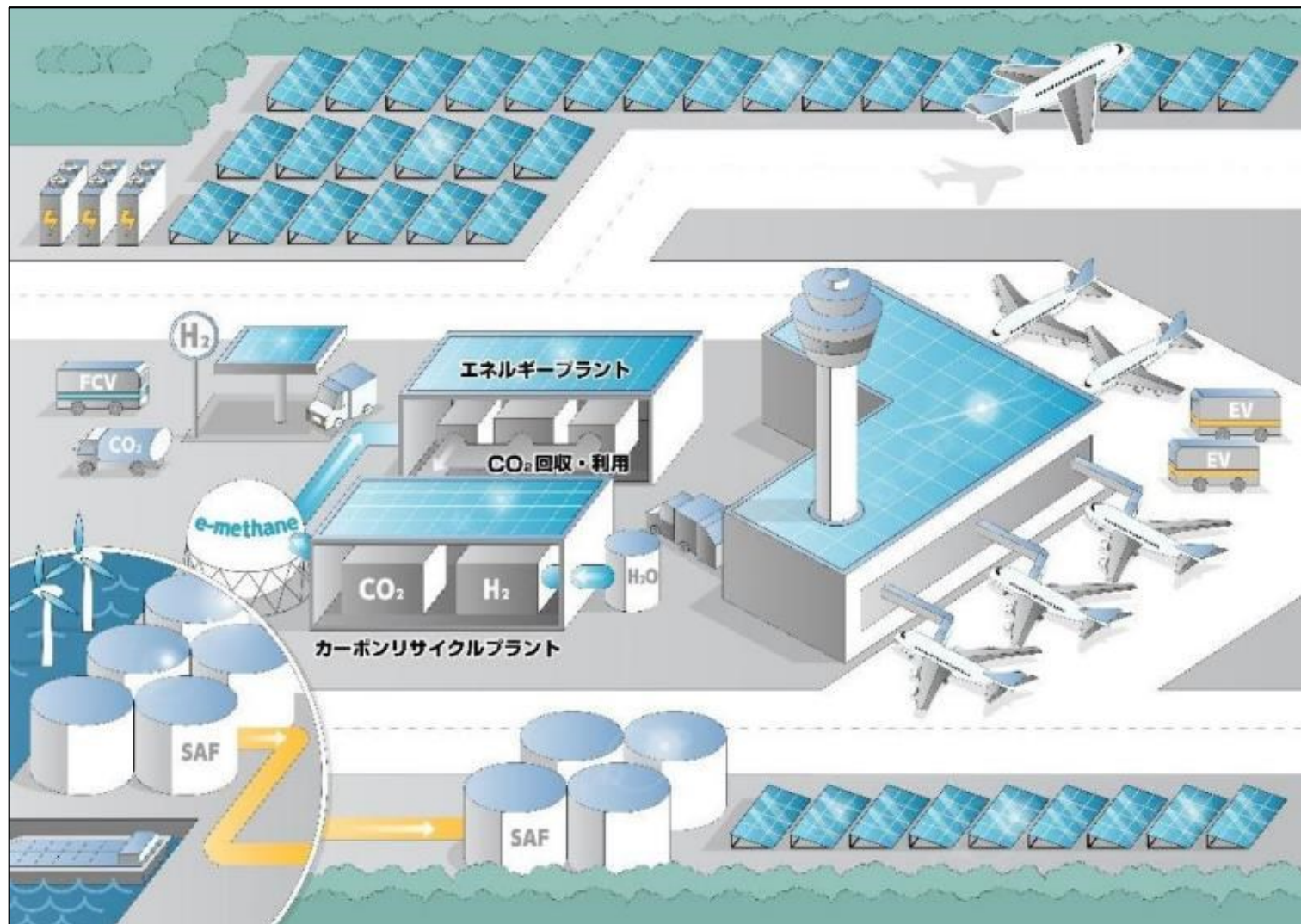


Green Energy Frontier

【出典】株式会社GreenEnergyFrontier ホームページ

エネルギー供給会社による将来的な展開

✓ 将来的にCCUS等の技術活用を見込んでいる。



【出典】株式会社GreenEnergyFrontier ホームページ

スタートアップとの連携による超急速EV充電設置

NEWS RELEASE

Narita Airport

国内空港初！

超急速EV充電サービスを開始！

～第1ターミナルP1駐車場にオープン～

2023年12月8日

成田国際空港株式会社（千葉県成田市、代表取締役社長：田村 明比古）は、「サステナブルNRT2050」^{*1}を掲げ、2050年度のCO₂排出量実質ゼロを目指しています。また、2023年12月1日には、国内空港で初めて^{*2}成田国際空港脱炭素化推進計画^{*3}が国土交通大臣の認定を受け、成田空港全体の脱炭素化へ向けてより一層取り組みを強化していきます！

この取り組みの一環として、空港アクセス車両の脱炭素化を推進するため、当社と株式会社パワーエックス（東京都港区、取締役兼代表執行役社長 CEO：伊藤 正裕、以下「パワーエックス」）は、成田空港第1ターミナルP1立体駐車場内に、国内空港で初めて、蓄電池式超急速EV充電器「Hypercharger」の設置を行うことで、電気自動車の導入を促進させます！

国内の高速道路等へ広く設置されている急速充電は50kWであるのに対して、今回サービスを開始するHyperchargerは、蓄電池を併設することにより低圧受電でありながら国内最速クラス^{*4}の最大150kW^{*5}の超急速充電が可能となり、従来の約半分の時間で充電を完了することができます^{*5}。

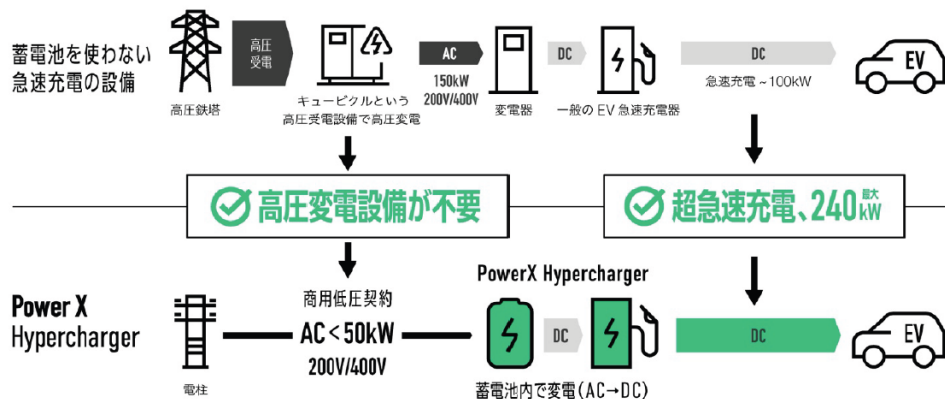
超急速EV充電器は、2023年12月15日（金）午前9時からサービスを開始し、PowerXアプリにより事前予約することで全てのお客様がご利用頂けます。

今後も電気自動車の導入促進や再生可能エネルギーの導入促進により、脱炭素化を推進してまいります。



～おかげさまで成田空港は開港45周年を迎えました～

EV超急速充電での蓄電池の活用

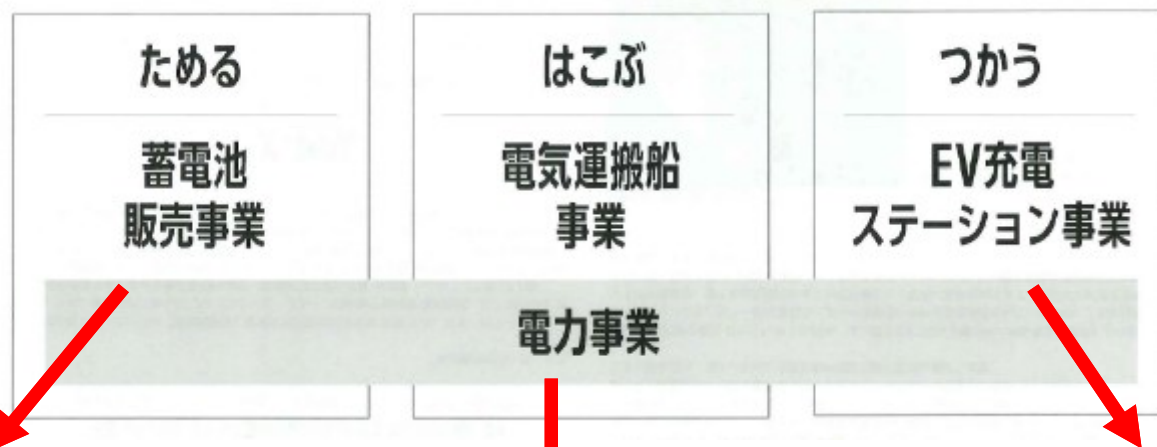


【出典】株式会社パワーエックス提供

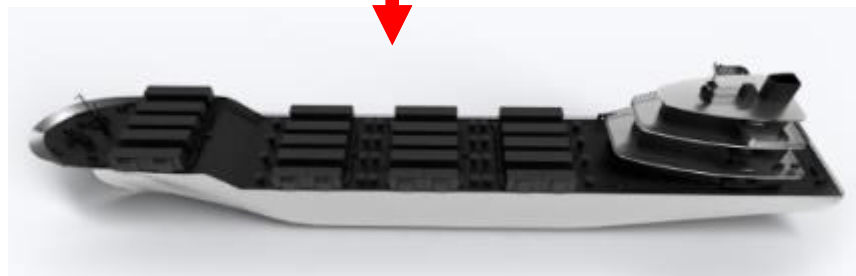
蓄電池活用による将来的な展開

- 蓄電池を中心とした製品とサービスで次世代のエネルギーカンパニーを目指す
スタートアップと連携

PowerXは、次世代型エネルギーカンパニーへ



蓄電池利用による電力利用の効率化



EV充電インフラによる
車両の低公害化

【出典】株式会社パワーエックス提供

空港設備へのバックアップ電源として水素燃料電池の導入

➤ 車両利用だけでなく燃料電池導入による空港施設へ活用拡大



【出典】株式会社ブラザーエンタープライズお知らせ（2023.10.19）

水素燃料電池活用による将来的な展開

- 定期点検時の停電作業や悪天等による停電時に水素燃料電池から電気供給を継続することにより運用継続が可能となる。
- 将来的なスタンドアローンとしての電源活用も見込まれ、電源側配線工事の効率化へ期待が可能となる。

長時間停電時のバックアップイメージ



【出典】株式会社ブラザーエンタープライズお知らせ（2023.10.19）